



エネルギーの未来へ、そして世界へ。

株式会社ハマイ

個人投資家向け説明資料

2025年12月10日

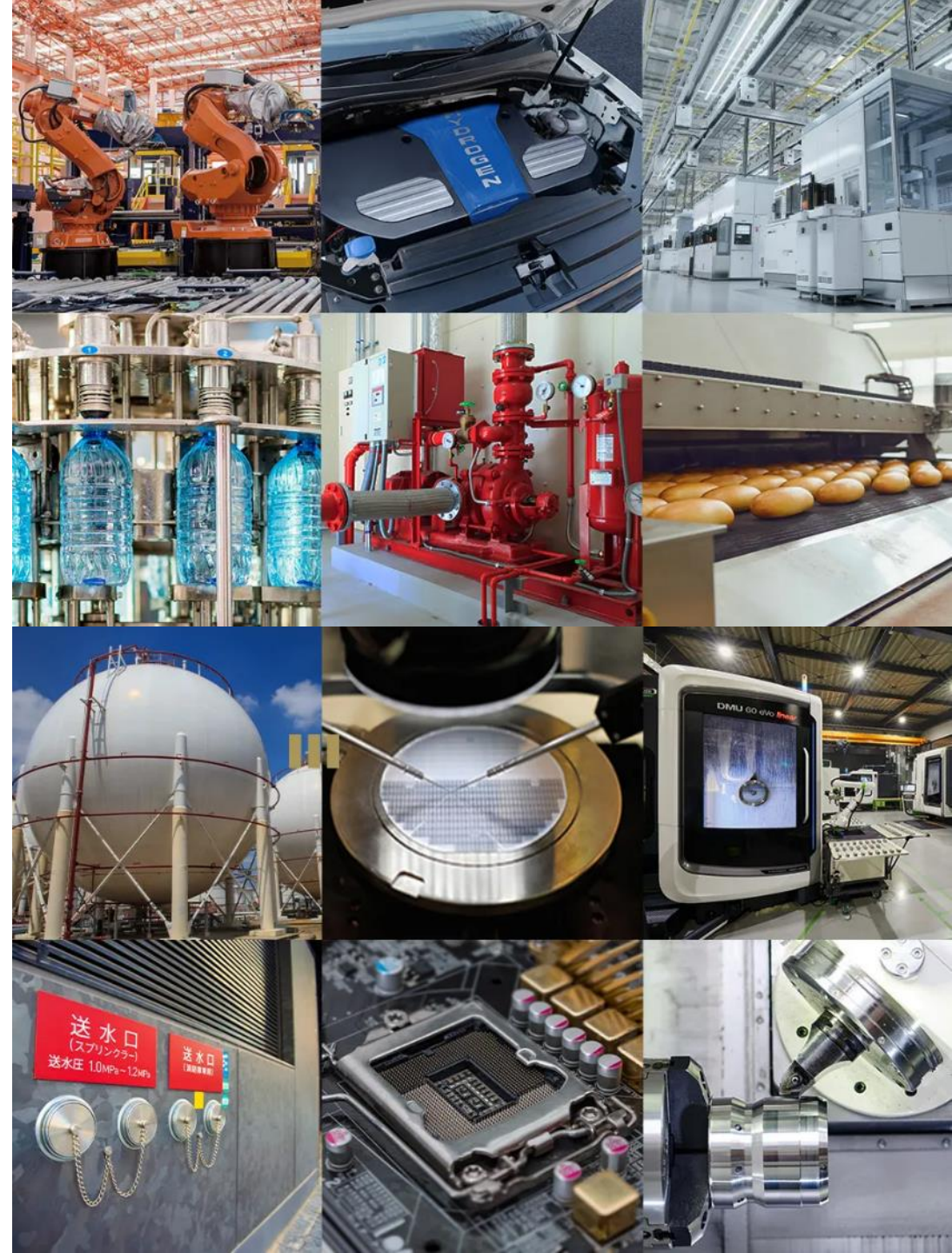
東証STD
6497



1. ハマイとは
バルブとは
特長と強み
業績の推移
2. 成長戦略 ビジョン2030
3. 今期の計画と進捗状況
4. 株価と指標の推移

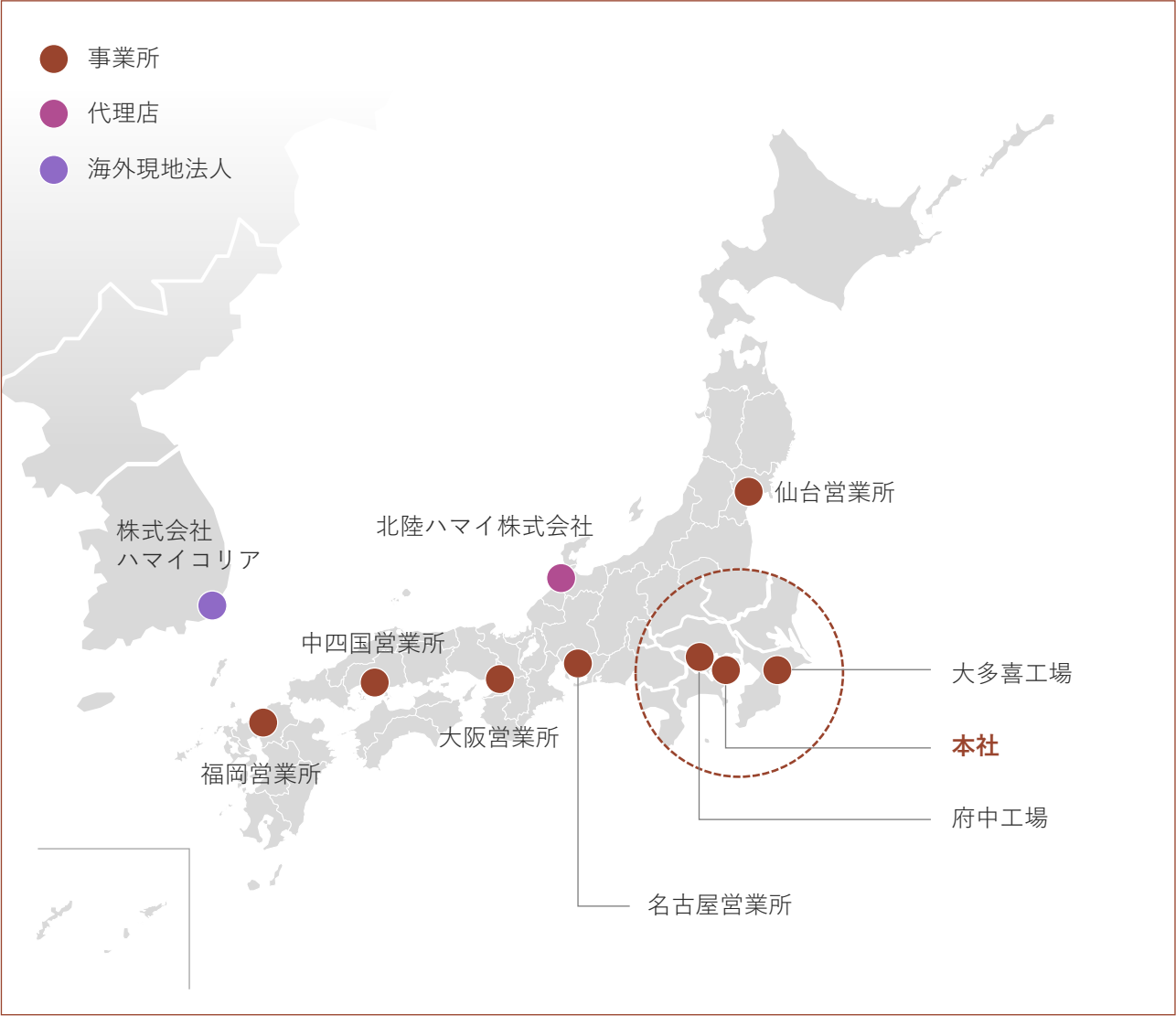


1. ハマイとは



会社概要

商号	ハマイ
創業	1927年（昭和2年）2月1日
資本金	3億9,530万円
上場証券取引所	東京証券取引所（スタンダード市場）
決算期	12月
事業内容	1. バルブ事業 2. 不動産賃貸事業
資格認定	<ul style="list-style-type: none">ISO9001認証取得 （本社（営業本部）、大多喜工場、府中工場） ※認証機関：テュフ ラインランド ジャパン株式会社ISO14001認証取得 ※認証機関：高圧ガス保安協会ISO審査センター種別大臣認定工場日本消防設備安全センター認定品製造工場厚生労働省・医療用具製造承認東京都・医療用具製造業許可
従業員数	288名



企業理念

私たちは安全でより良き製品を作り、
社会の繁栄と人々の幸福に貢献する。

経営理念

- 1) 安心・安全の追求
- 2) 効率的なエネルギー転換への貢献
- 3) 社員と地域に優しい物造り現場
- 4) 和を重んじ、社員も会社も持続的成長を遂げる
- 5) 社会の多様性にこたえる技術力の向上



1927- 創業期

1927年2月

浜井 栄がガス溶断器の製造を目的に、
個人企業「浜井製作所」を創業

1939年12月

個人経営から、合名会社に改組

1953年8月

プロパンガス容器用バルブの製造を開始

1958年10月

合名会社を吸収合併し、
「株式会社浜井製作所」へ改組
ガス溶断器の製造を縮小撤退

1960年11月

東京都府中市に、L P ガス容器用バルブ
の生産拠点として府中工場を新設



1970- 拡大期

1972年6月

日本証券業協会店頭売買銘柄に登録

1974年5月

千葉県夷隅郡大多喜町に大多喜工場
を新設、配管用ボールバルブを製造開始



1989年7月

L P ガス容器用バルブの生産拠点を、
府中から大多喜へ移転
府中工場は高圧ガス容器用バルブ・
特殊ガス用バルブとその周辺機器類
の生産にシフト

1990- 安定期

1991年4月

社名を株式会社ハマイと改称

2002年8月

「水素燃料電池用バルブ」の開発を主眼
としたプロジェクトを発足

2005年10月

L P ガス容器用バルブ
生産累計2億個を達成



2010- 事業拡張期

2013年2月

韓国に株式会社ハマイ코리아
(100%出資) を設立



2017年4月

旧本社跡地に介護付有料老人ホーム
「ニチイホーム不動前」を開業





バルブとは

役割と仕組み

- － バルブの役割は、液体や気体などを「流したり」、「止めたり」、「制御したり」すること
- － 日本産業規格（JIS）の定義では「弁（べん）」という用語が使われる

バルブの仕組み

例：ボールバルブ

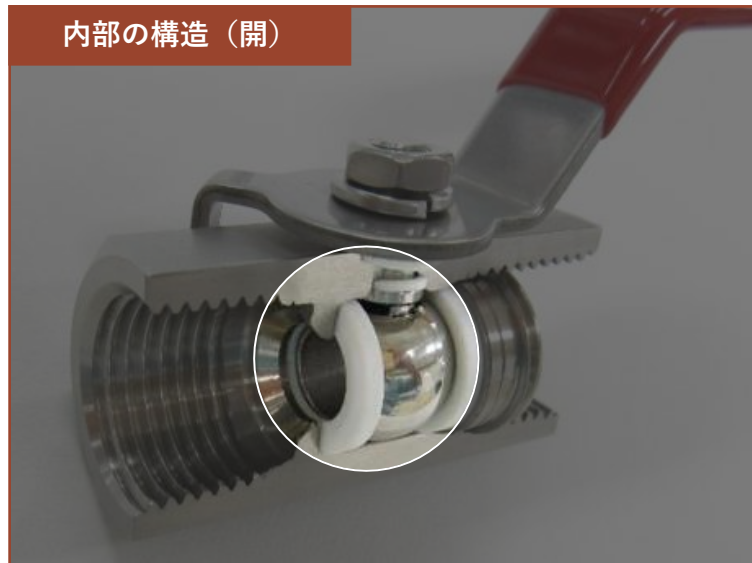
BSS-01/820型 レバーハンドル型
ステンレス製ボールバルブ（08A～50A）

外観



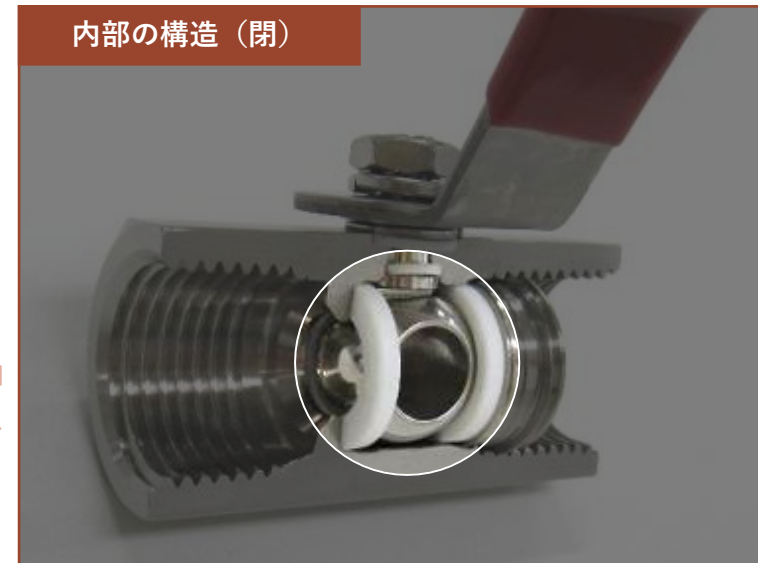
バルブの中に「ボール(球)」が入っていて、そのボールに穴が空いています。ハンドルを90度回すと、このボールが回転します。

内部の構造（開）



ボールの穴が配管の流れと一直線になると、流体がスムーズに通り抜けて「開」になります。

内部の構造（閉）



ボールの穴が流れと直角になると、流れが止まって「閉」になります。

バルブの使用例

- ー バルブは石油・化学プラントや工場設備/装置から、身近な交通機関、住宅など、あらゆるところで活躍
- ー バルブ業界の裾野は非常に広い

石油・化学
プラント

工場設備/
装置

高圧ガス
設備

電車

ビル
(空調・水道)



建設機械

タクシー
(L P ガス)

住宅
(L P ガス)

消火設備

市場・用途とバルブの種類

- ー バルブは使用される市場やその用途に応じて、様々な種類に細分化
- ー ハマイのバルブも多様な市場・用途で数多くの製品が貢献

エネルギー

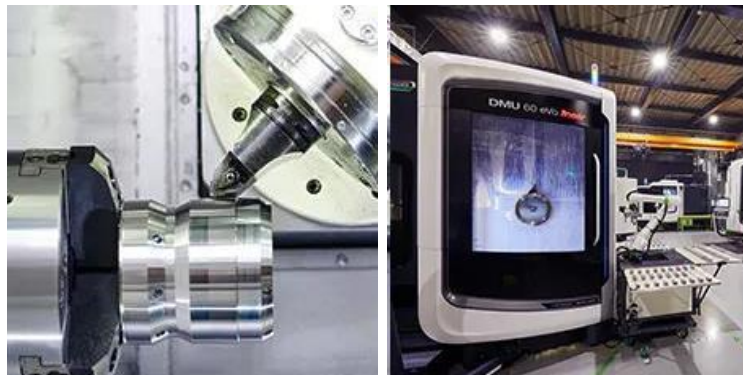


LPガス容器用バルブ



ガスボンベの栓として
機能
ガス漏れの防止に貢献

工作機械



配管用バルブ（ボールバルブ）



金属材料の切削時に用い
る切削油の供給・調整や、
不用な油の排出に貢献

半導体製造



高圧ガス用バルブ



クリーン性能や耐食性が
ハイテク分野で高い評価
使用する流体の性質や
用途に合わせて開発

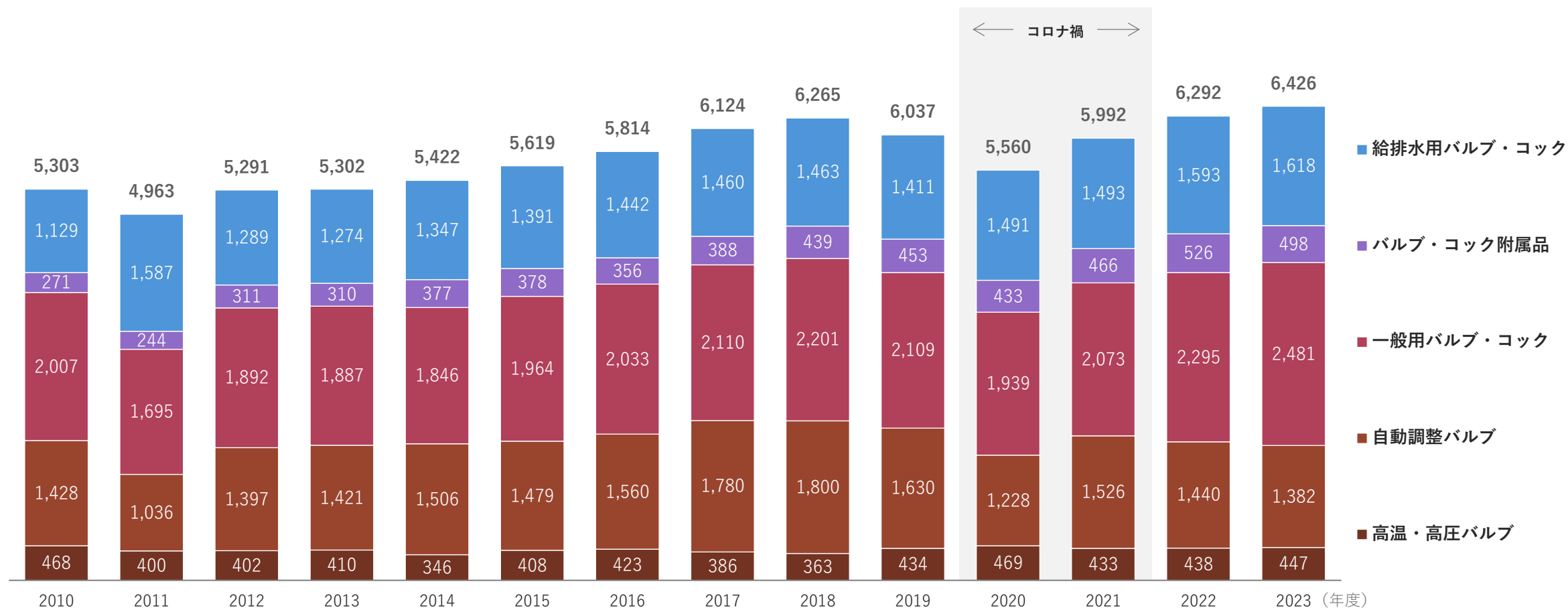
消化設備



バルブの市場規模

- ー 主要バルブ製品の出荷額はコロナ禍で一時減少するも、インフラ更新需要などを受けて回復傾向
- ー 2023年度の市場規模は6,400億円程度、当社はいずれの領域にも対応

バルブの出荷額推移（単位：億円）



当社の売上高構成

- － L P ガス容器用バルブの売上高が最も大きく40%超、高圧ガス用バルブ、配管用バルブが各々20%程度ずつを占める
- － 当社はバルブの中でも、流量の経路が直径5cmまでの比較的小さめのバルブ製造に特化

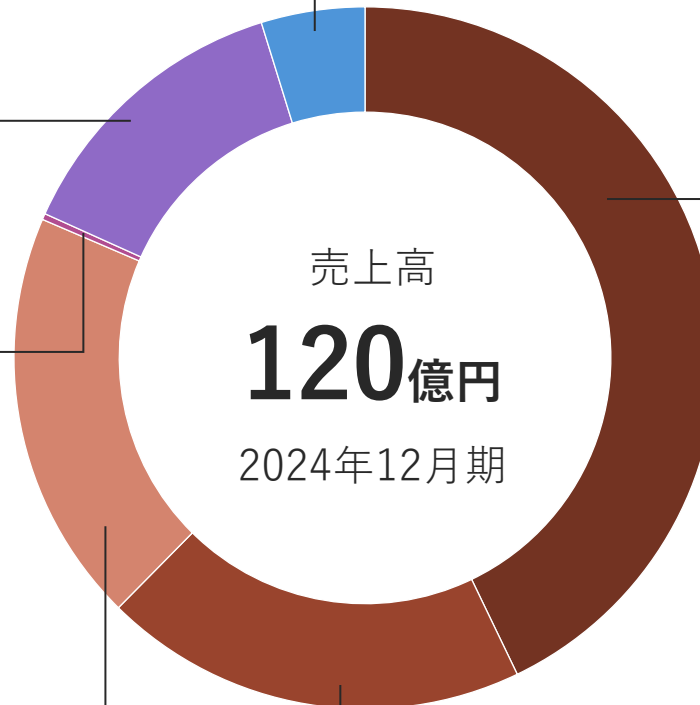
不動産賃貸事業 4.8% 5.7億円

黄銅削り粉 13.5% 16.3億円

商品 0.3% 0.4億円



配管用バルブ
19.1% 23.0億円



売上高
120億円
2024年12月期

L P ガス容器用バルブ
42.9% 51.8億円



高圧ガス用バルブ及び
ガス関連設備機器
19.5% 23.6億円



L P ガス容器用バルブ

- ー 液状のL P ガスの充てんと、ガス状のL P ガスを取り出す目的で使用する機器で当社のメイン製品
- ー 高圧ガス保安法に準拠した「附属品検査」に合格したもの、若しくは登録工場において型式承認を受けた附属品でなければ譲渡や引き渡してはならないと規定

L P ガス容器用バルブ

L P ガス家庭/業務用バルブ

50LW-S-SPC-NO.5/7/4型 (5kg~50kg)

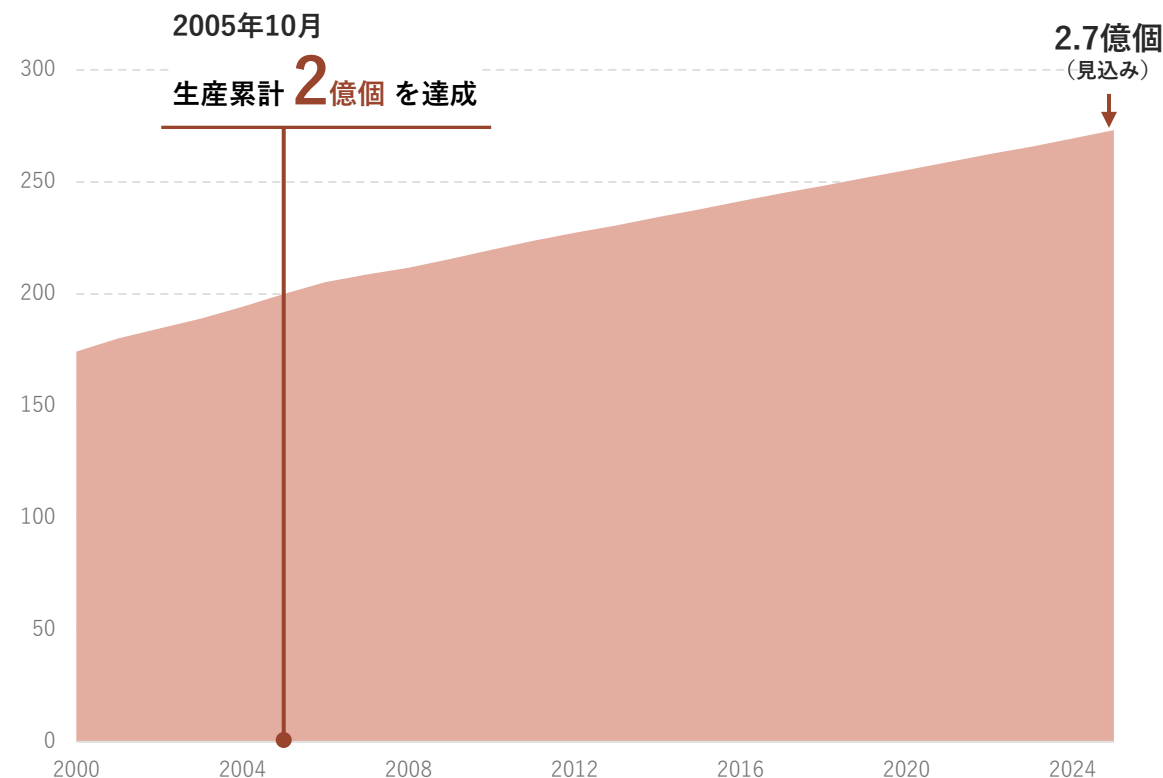


溶接容器に取り付けて使用



L P ガス容器用バルブの販売は1950年9月にスタート。1955年3月にO-リング式に切り替え安全機能を高め、市場を拡大。1993年4月にO-リングをダブルにし、さらに安全機能を向上。中でも50LWは、トップシェアを誇る黄銅製・L P ガス容器用バルブのロングセラー製品

L P ガス容器用バルブ (50LM) 累計生産個数 (単位: 百万個)

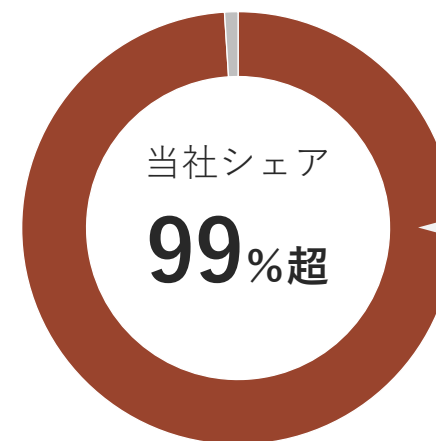


L P ガス自動車用バルブ

- ー タクシーはL P ガスを燃料として利用しており、現在主流の箱型タクシーもL P ガスエンジンと電気モーターのハイブリッド車
- ー ハマイは、L P ガス自動車用バルブのシェア99%超*。L P ガスを使用するタクシーも、ほぼハマイのバルブを採用



L P ガス自動車用バルブの当社シェア



L P ガス自動車用バルブの種類

充填バルブ

一定の決まった量を充填すると自動的に充填が停止する過防填防止機能を持たせています。

取出バルブ

L P ガス容器から燃料を取り出すラインの容器元弁として使用。過流防止の機能を持たせています。

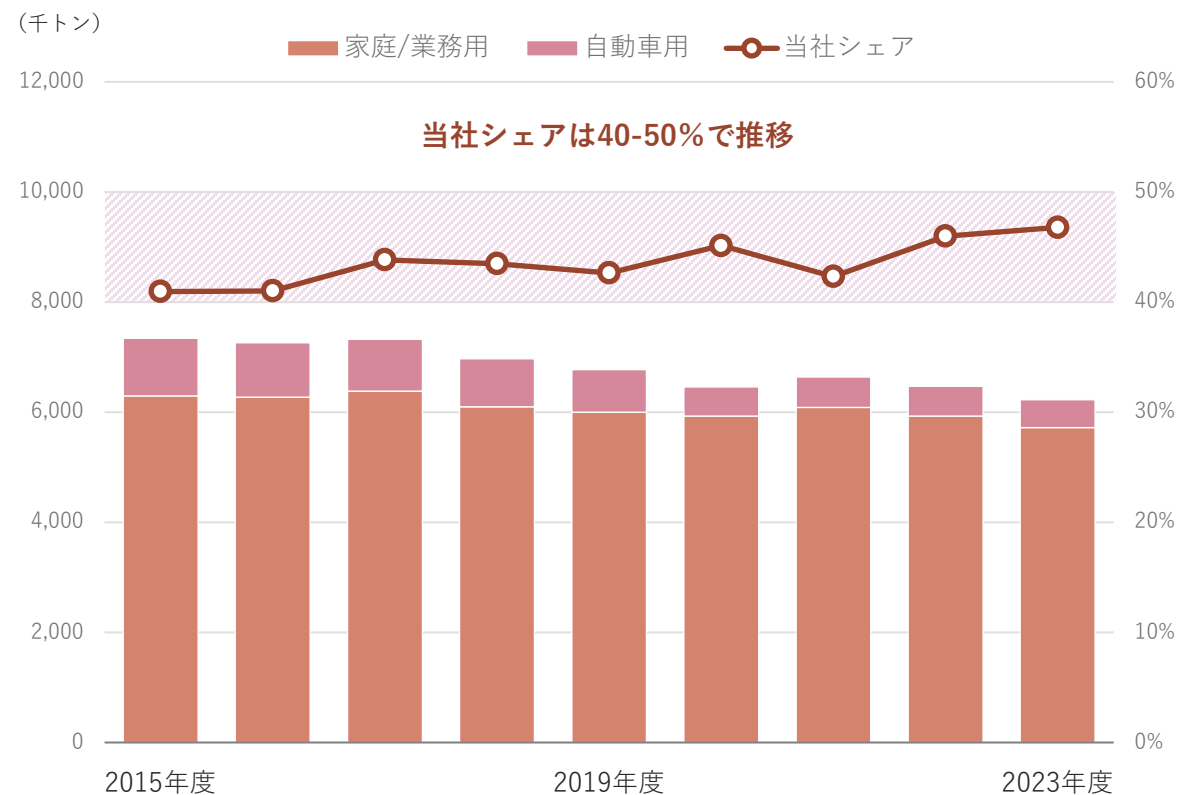
安全弁

容器内の圧力が異常に上昇した際に自動的に圧力を放出させ、内部圧力の降下とともに自動的に閉じる構造

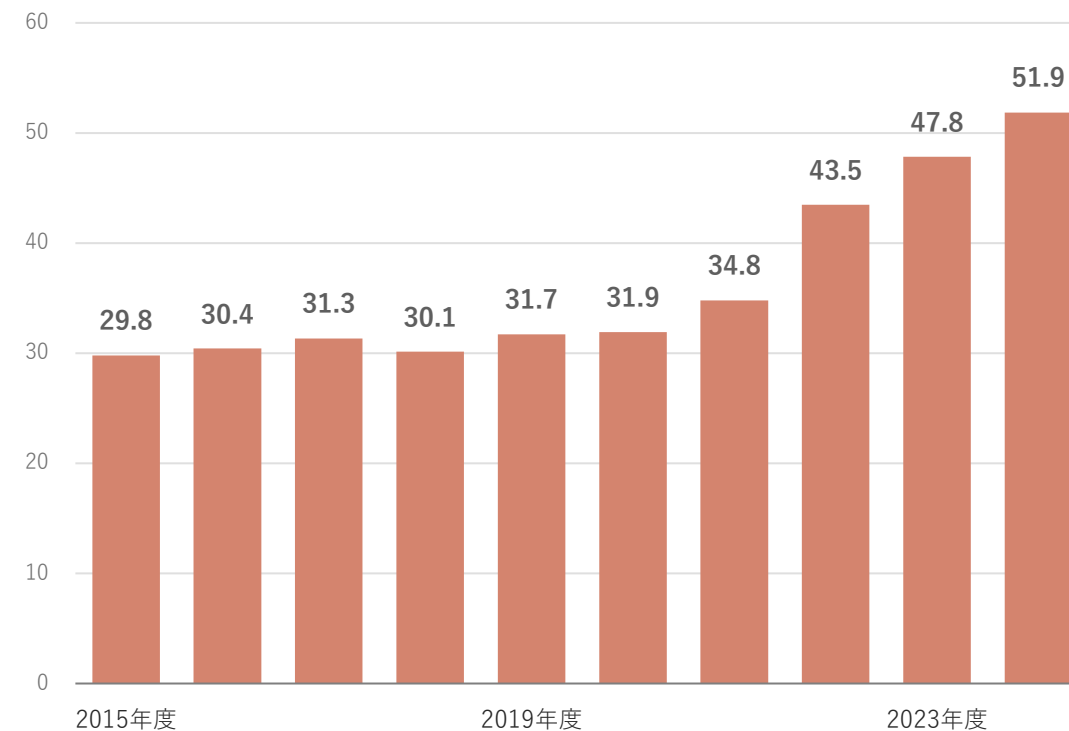
L P ガス容器用バルブの実績

- ー L P ガス容器用バルブ（家庭/業務用・自動車用）では、長年の信頼から約半数のトップシェアを誇る
- ー L P ガスの需要は減少傾向にあるものの、将来的には一定レベルで止まると当社では想定
- ー 当社バルブのシェアは拡大傾向。この数年は価格改定も進み、業績は堅調に推移

L P ガス（家庭/業務用・自動車用）の需要と当社バルブの当社シェア



L P ガス容器用バルブの当社売上高の推移 (単位：億円)

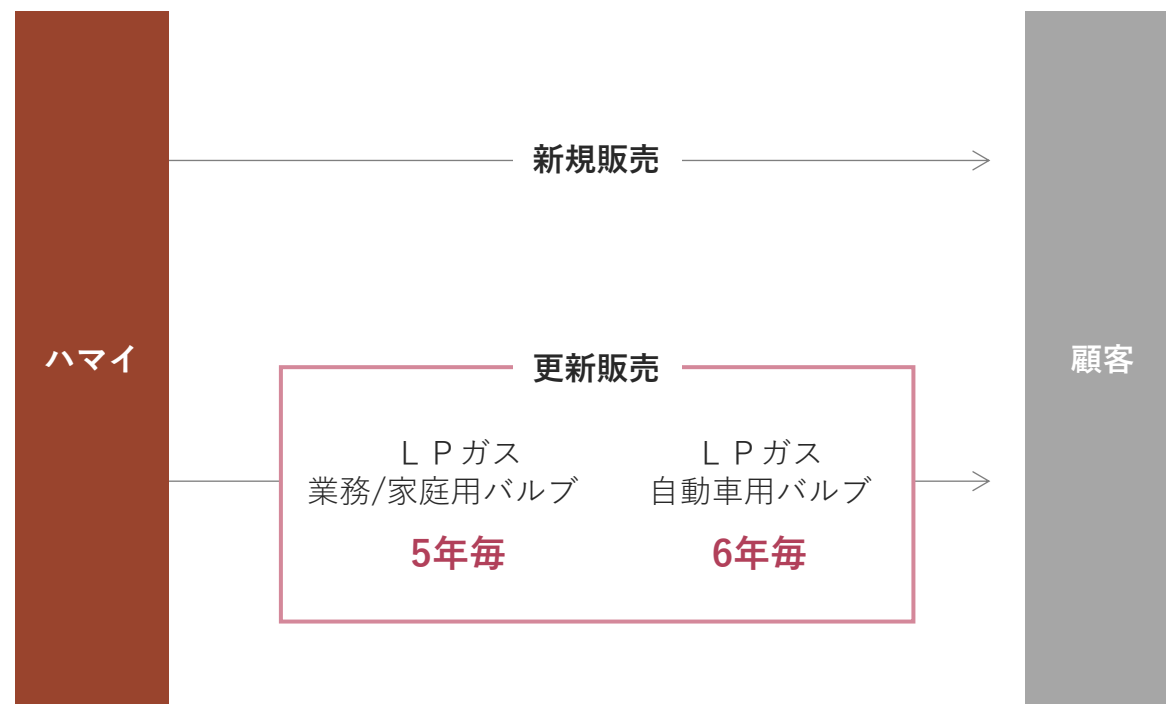


L P ガス容器用バルブのビジネスモデル

- － 安全性を確保するため、L P ガス容器は定期的には検査が義務付けられている
- － これにより、バルブも新規の需要に加え、検査に伴う更新需要が存在、安定した収益を創出可能なビジネスモデル

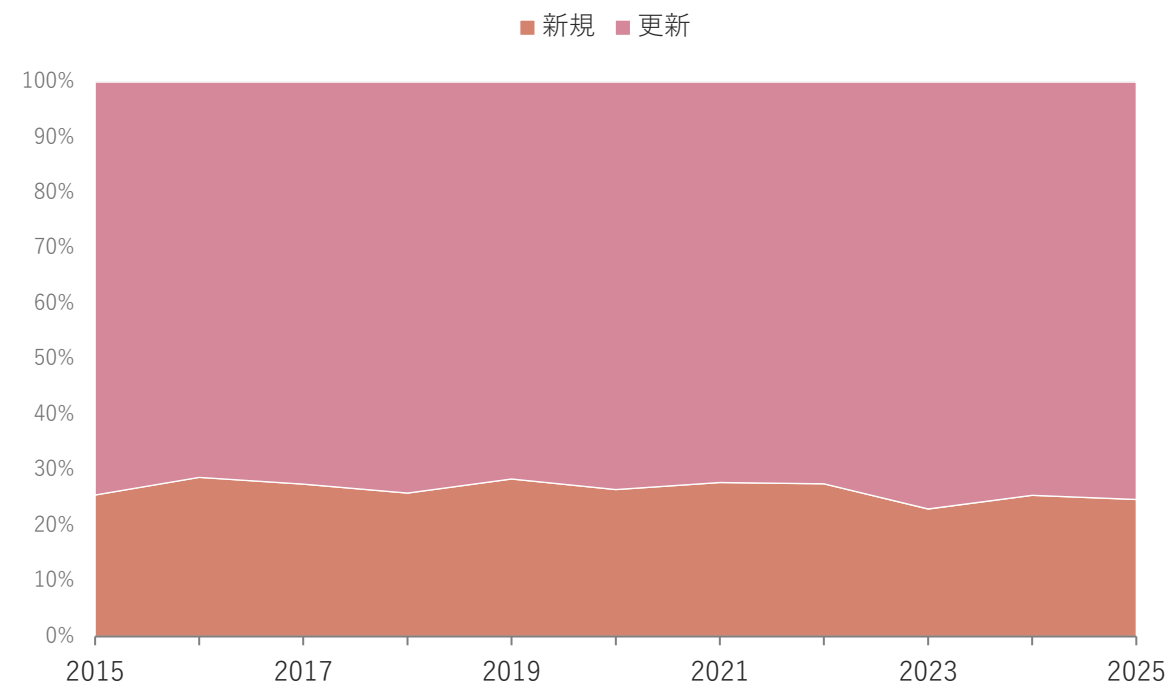
L P ガス容器用バルブのビジネスモデル

L P ガス容器用バルブの需要には、新しい容器用の新規販売と再検査向けの更新販売の2つの経路が存在。検査による需要は5-6年毎に定期的に発生



L P ガス容器用バルブの販売個数の割合（新規・更新）

販売個数に占める新規（容器メーカー向け出荷）の割合は20-30%で推移
更新（再検査向け出荷）の占める割合の方が大きく、70-80%で推移





特長と強み

- － バルブの開発で取引先の抱える課題を解決、事故発生リスクの低減や、生産効率の向上を通じて社会に貢献
- － 長年の実績により、幅広いお客様からの信頼を獲得。機能性バルブと言えばハマイの地位を確立

製品例

ロック機構付ボールバルブ

TTS-124型



確実なロックでハンドルへの不意の接触や誤作動を防止

半導体設備・装置メーカーにて採用

黄銅製スタンダードボールバルブ

BBS-77型



国内生産の鍛造ボディで振動が多い悪環境でも安心して使用可能

国内外の大手車両メーカーで広く採用

メタルタッチバルブ

FS-55LMT型



樹脂の使用が適さない高腐食性ガスに対応し、金属のみで高い気密性能を維持

半導体製造メーカーにて採用

オーダーメイド対応

- ー 当社では、あらゆる産業機械や設備・配管等に対応するオーダーメイドバルブの製造が可能
- ー クライアントのラフスケッチから、技術・開発のエンジニアが検討図面を作成し、バルブの設計・制作をすることも可能

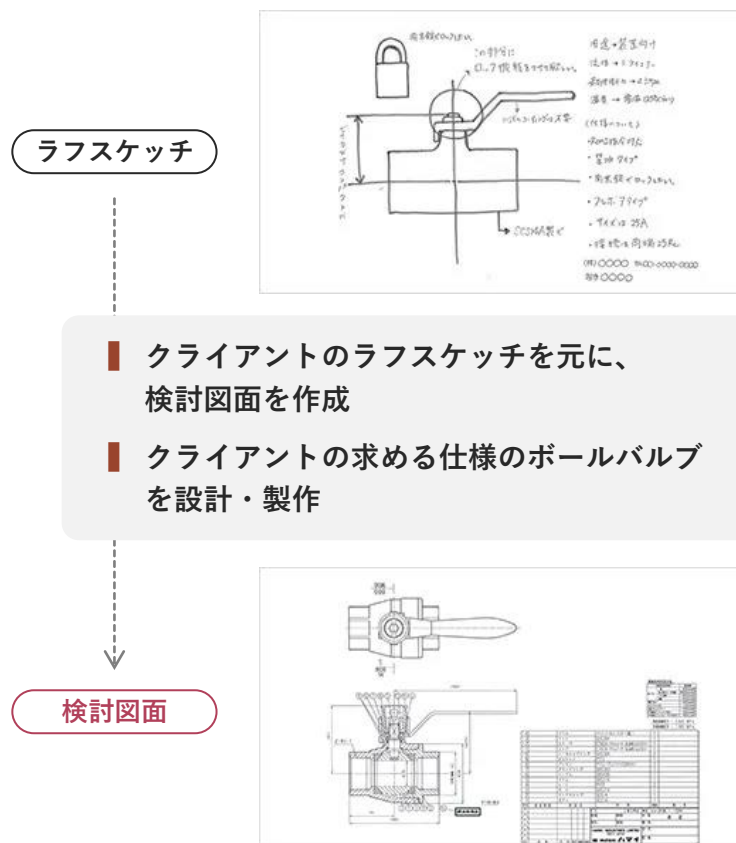
ご要望例

- ・ 狭いスペースに設置したい
- ・ ハンドルの形状を変更したい
- ・ 開閉方向を変更したい
- ・ 開閉状態をひと目で確認したい
- ・ 特殊な流体に対応させたい
- ・ ロック機能をつけて誤作動を防止したい
- ・ 規格の異なるネジを組込みたい
- ・ 複数のバルブを一体化したい
- ・ 禁油仕様にしてほしい
- ・ Oリングの材質を変更したい

開発事例



ラフスケッチから製作可能



生産能力

- ー 様々な市場のクライアントの需要に応え、信頼と実績を積み重ねてきた生産ラインは、バルブ業界では国内最大級
- ー 大多喜工場・府中工場ともにISO9001（品質マネジメントシステム）、ISO14001（環境マネジメントシステム）を取得



大多喜工場

所在地	千葉県夷隅郡大多喜町横山880
主な製品	L P ガス容器用バルブ、配管用バルブ、安全装置及びその関連部品を設計、製造
資格認定	ISO9001認証取得／ISO14001認証取得 「大臣認定試験者」認定工場
生産能力	L P ガス容器用バルブ、ボールバルブを中心に、月間70万個程度までの生産が可能



府中工場

所在地	東京都府中市西原町1-3
主な製品	高圧ガス用バルブ、設備用バルブ及びそれらに付属する機器を設計及び製造
資格認定	ISO9001認証取得／ISO14001認証取得 「大臣認定試験者」認定工場 日本消防設備安全センター認定品製造工場
生産能力	高圧ガス用バルブを中心に、月間5万個程度までの生産が可能

生産の特長

- － お客様がバルブに求める機能は多種多様。大量生産に加え、付加価値は高いものの生産は少量に限られるケースも存在
- － 当社では、自動生産ラインとセル生産ラインにより、大量生産と少量多品種生産の両方のニーズに対応可能
- － 大多喜工場では、繁忙期の異なるLPガス容器用バルブと配管用バルブを生産するなど、稼働率向上への取り組みも推進

量産設備を保有

LPガス容器用バルブは、年間500万個以上の生産が可能な量産設備を保有し、大量需要へ迅速に対応



セル生産ラインを確立

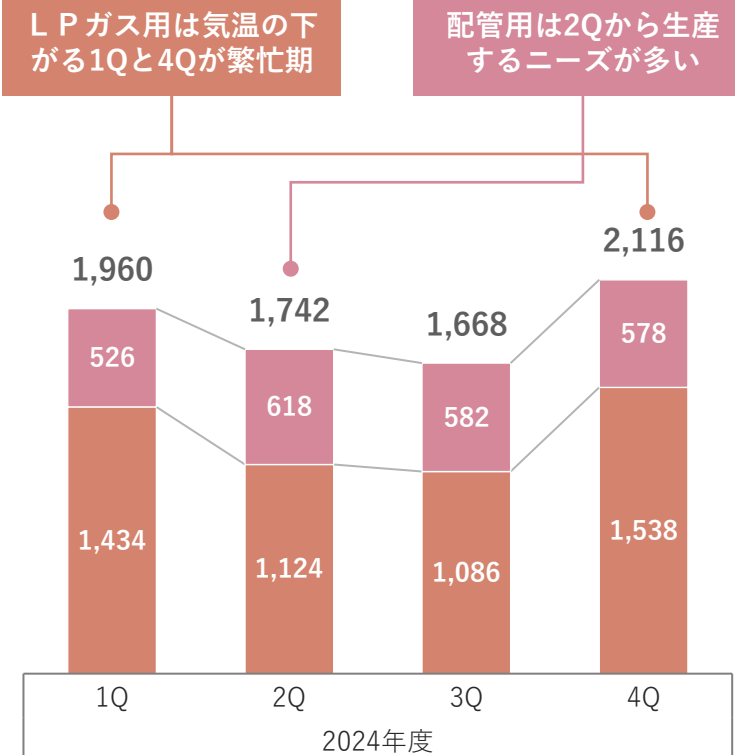
少人数のチームで製品の組み立て工程を一貫して担当する体制を構築。高い技能を持つ多能工も多数在籍



LPガス容器用バルブと配管用バルブの繁忙期

(単位：百万円)

■ LPガスバルブ ■ 配管用バルブ



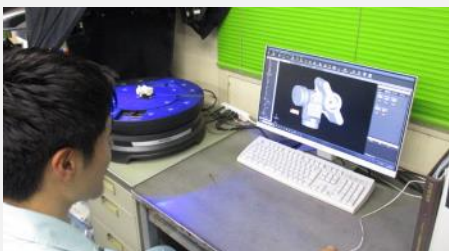
- － 教育講習を修了し、試験・検査員として登録をされ、且つ一定のスキルを保有したもののみが検査を行う体制を構築
- － 自動化、検査工程の見える化も進め、人的ミスの発生を予防。製品不良率0.00001%を達成

各工程と、検査・試験員資格

材料受入

受入検査試験員

材料・金型・外注品などの
受入検査を実施



加工・組立

工程内検査試験員

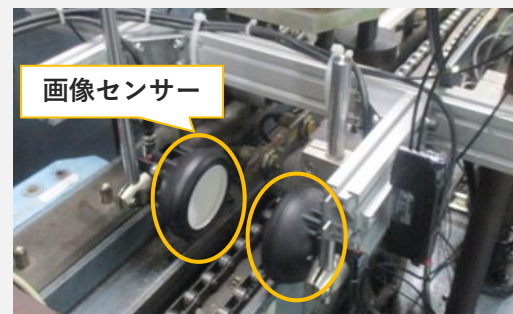
加工・組立・完成・立会検査
を実施



検査

製品検査試験員

最終検査・出荷が許可が可能



バルブは種類や用途等、様々な刻印が表記

認定品

認定品検査試験員

認定品の検査・試験並びに点検
及び肉厚検査を実施



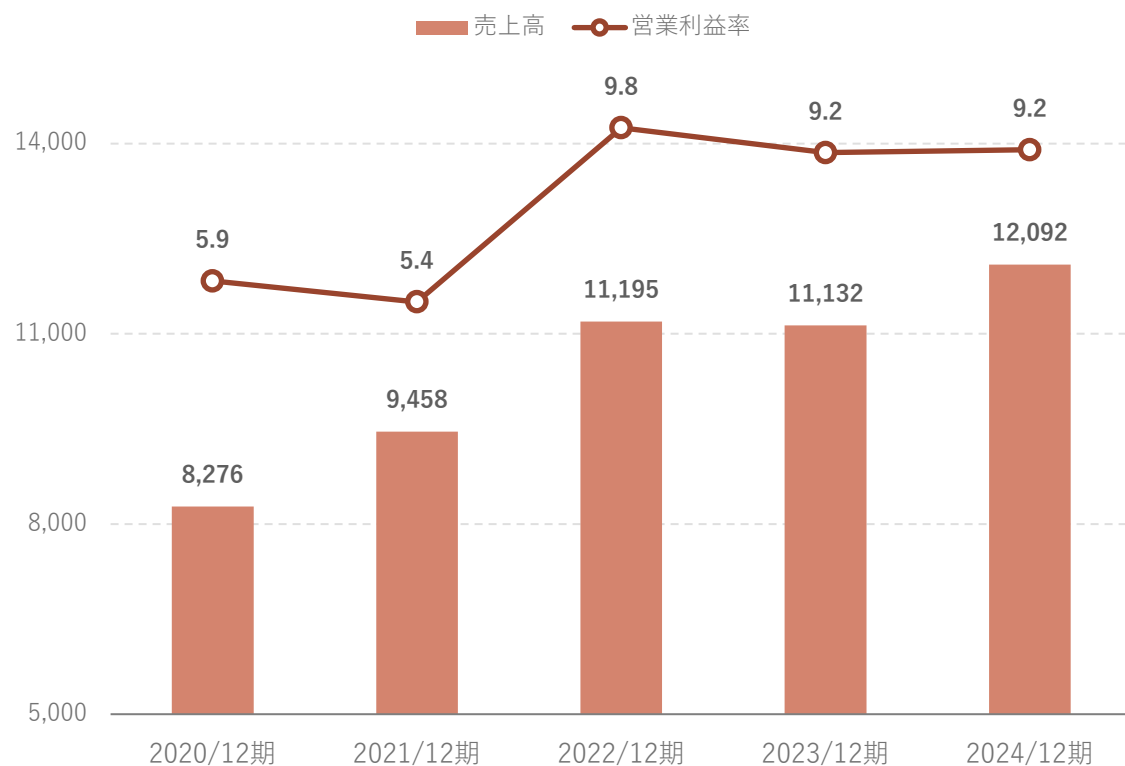


業績の推移

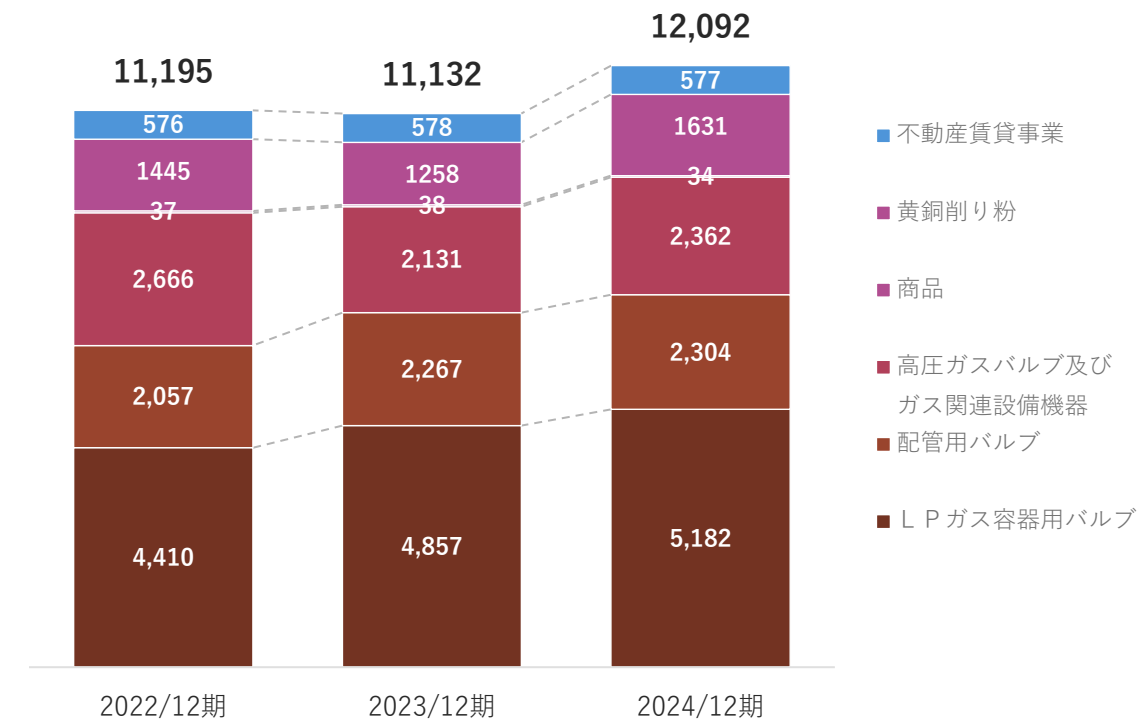
実績の振り返り

- － 2000年以降高騰する原材料に対する価格転嫁が徐々に浸透し、増収基調となり利益率も改善
- － 増減はあるものの、バルブセグメントは拡大トレンド、製造の際に発生する黄銅削り粉を売却することで原材料費の高騰を一部相殺

売上高と営業利益率の推移（単位：百万円）



売上高構成の推移（単位：百万円）



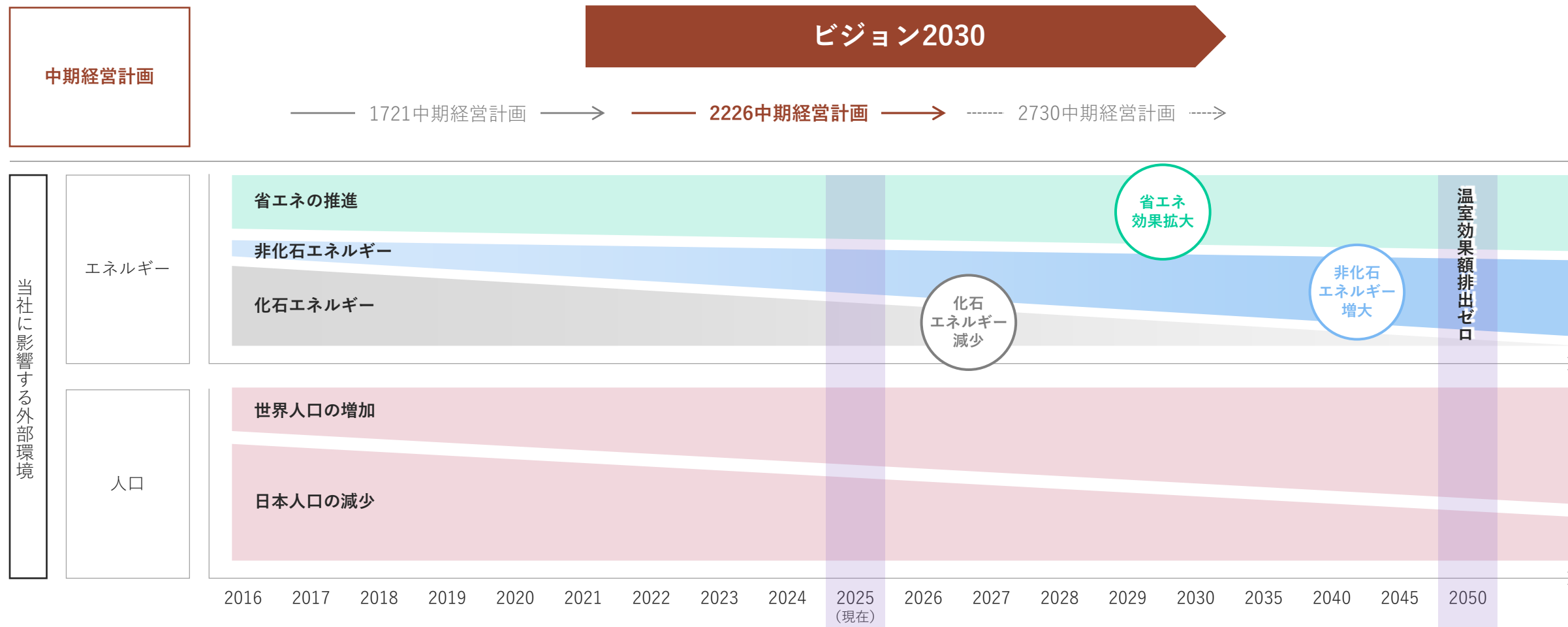


成長戦略 ビジョン2030



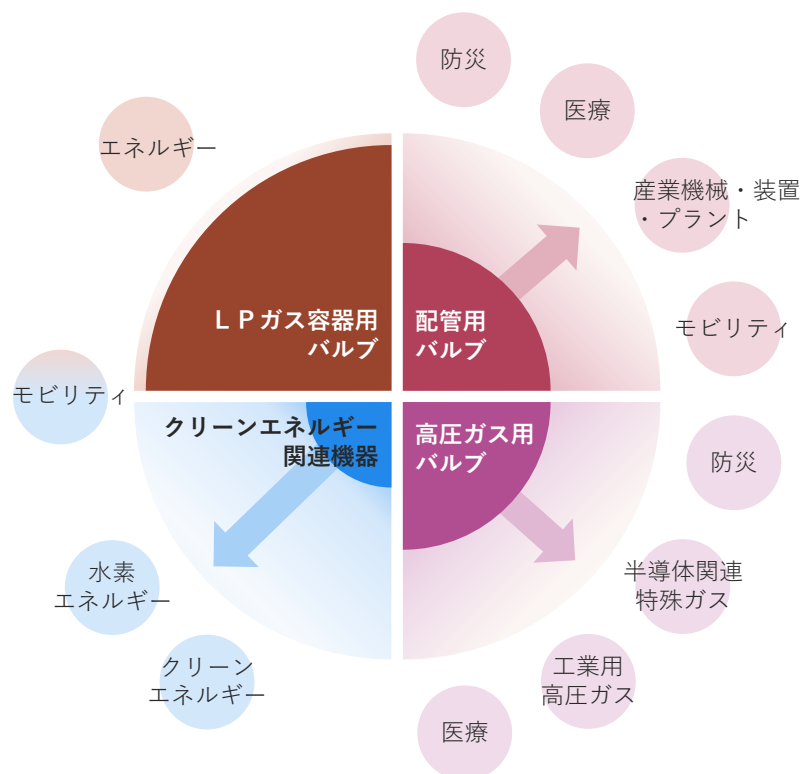
ハマイを取り巻く環境

- － 2050年における「温室効果ガス排出ゼロ」「カーボンニュートラル」に向けて、世界中でエネルギー転換が加速すると予想
- － 省エネの推進により、化石エネルギーは減少が見込まれ、日本人口は減少する一方、世界の人口は増加する見込み
- － ハマイでは、エネルギー転換点となる2030年を見据えて、2021年に「ビジョン2030」を策定



- － L P ガス容器用バルブで安定収益を獲得しつつ、配管用バルブ・高圧ガス用バルブへの投資を拡充し、対応領域を拡大
- － 非化石エネルギーへの移行を見据えて、長年開発を続けてきたクリーンエネルギー関連機器の市場投入を目指す
- － 配管用・高圧ガス用・クリーンエネルギー関連機器では国内にとどまらずグローバル市場へ積極的に展開

あらゆる産業への貢献



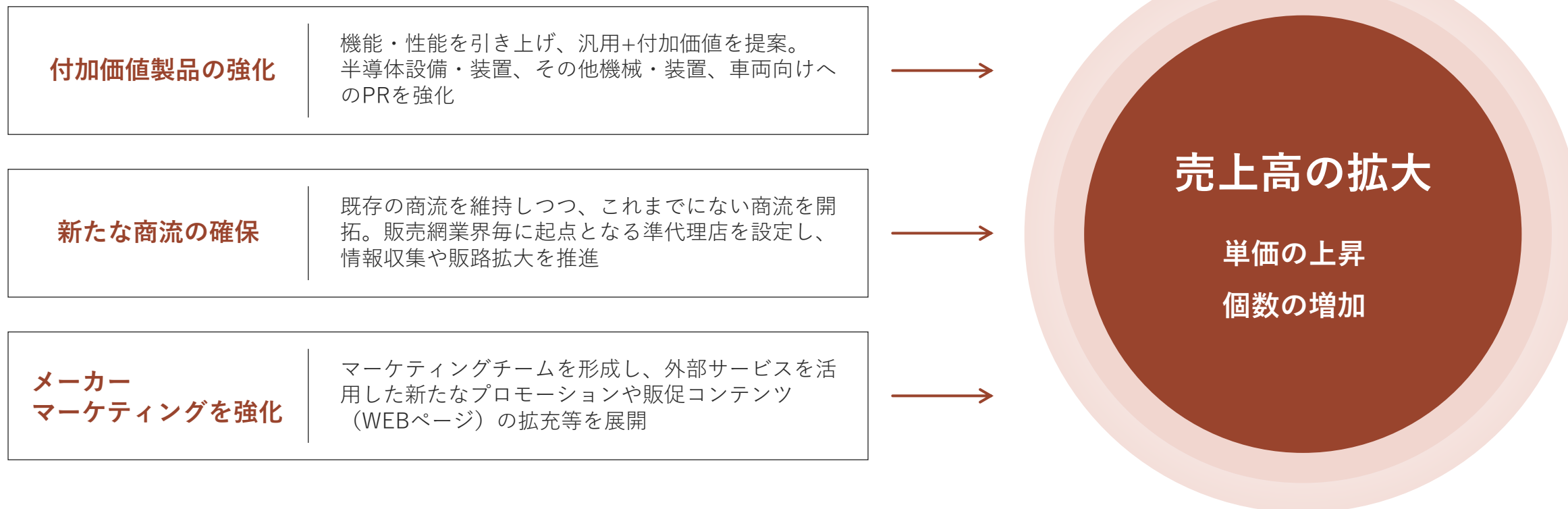
グローバル市場への展開



配管用バルブを拡大

- － 機能・性能を引き上げ、製品の付加価値をさらに強化
- － 準代理店を設定し、新たな商流の開拓を推進。プロモーション活動を強化するため、マーケティングチームを新たに組織

配管用バルブの拡大戦略とアクションプラン

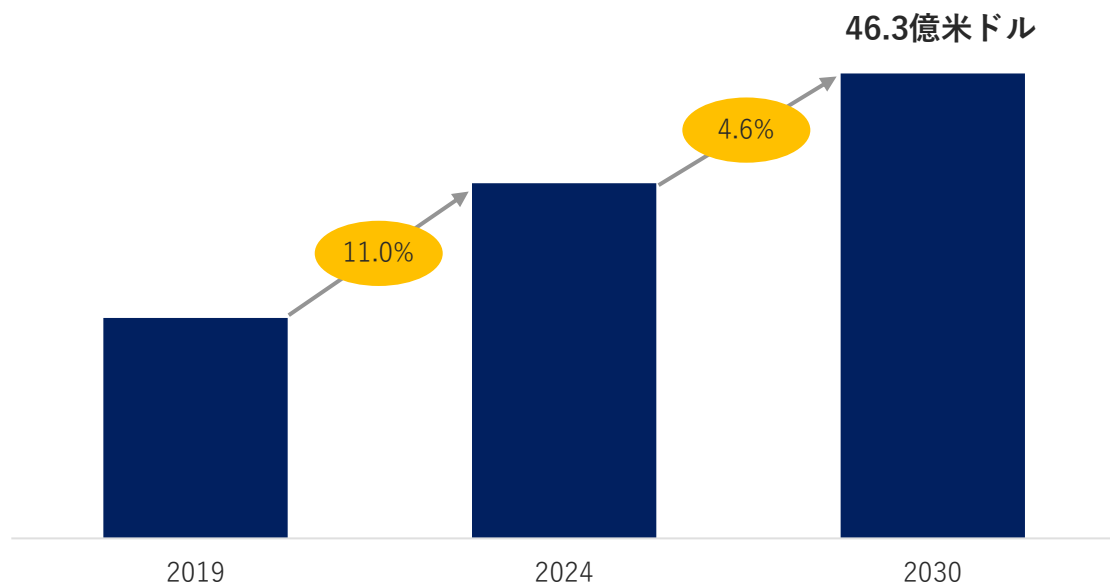


高圧ガス用バルブを拡大

- － 半導体バルブの市場規模は拡大基調にあり、今後も増加・成長傾向にあると認識
- － 増減はあるが、進出後ハマイ코리아は増収基調、2030年にかけて東アジア（中国・韓国・台湾）での半導体製造の回復を見込む

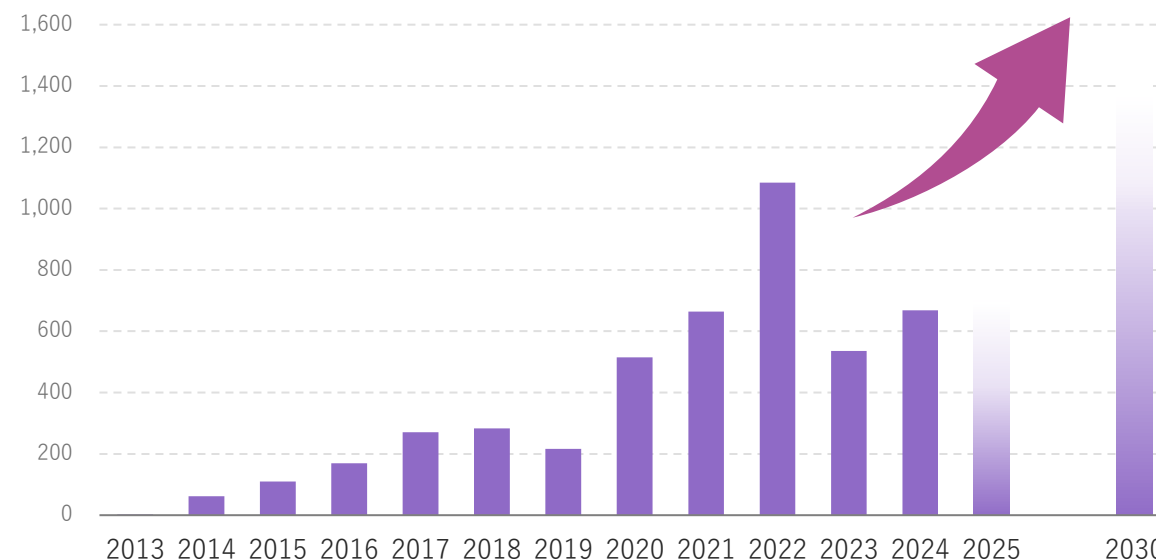
半導体バルブの市場規模

2030年までに半導体バルブの世界総市場規模は46.3億米ドルに達すると予測されており、今後も増加・成長傾向にあると当社では認識



ハマイ코리아の売上高推移（単位：百万円）

- 当社の半導体用高圧バルブはハマイ코리아がけん引
- 半導体の環境について2023年より24年-25年にかけては微増傾向と認識
- 中国からの引き合いは強く、2030年にかけて回復の伸びが高いと予想



クリーンエネルギー関連機器を拡大

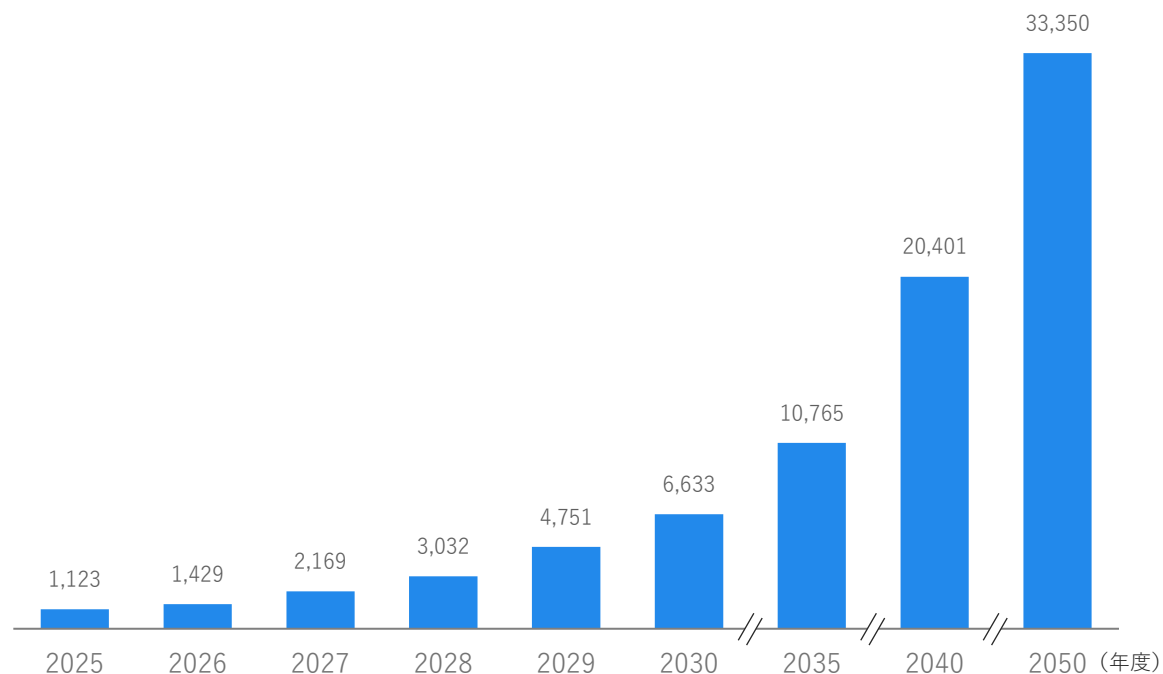
- ー 水素サプライチェーンの構築は途上であるものの、徐々に環境の整備は進むと見込む
- ー 当社では、将来的な水素調達コストの低減、実用化の加速を見越し、水素の様々なシーンに関わる製品の開発を推進

水素エネルギー活用機器・システム市場規模予測（単位：億円）

注1. 当該年度に新規導入される機器・システム金額ベース

注2. 水素をエネルギーや動力源として活用する、発電設備・機器、燃料設備・機器、輸送用設備・機器等を対象とした

注3. すべて予測値



出所：矢野経済研究所

水素関連機器開発の取組み等

自動車などの各種機器メーカーの動向を注視しつつ、開発段階から協業サポートを行える様、情報収集と営業活動に注力



FCV（水素燃料電池自動車）用水素バルブ

- 日本大手自動車メーカーと共同開発
- 国産1号車のインタンクバルブの開発に成功
- 従来製品と比較して約2倍量の水素を充填、航続距離を飛躍的に拡大



水素ステーション用超高压充填バルブ

- 日本法規対応のWEH社製・水素充てんディスペンサー用ノズルで、現在、全国多数の水素ステーションにて使用。従来のガソリンスタンド使用のノズルと同一の操作感での使用が可能
- 国内におけるメンテナンスは主に当社が対応

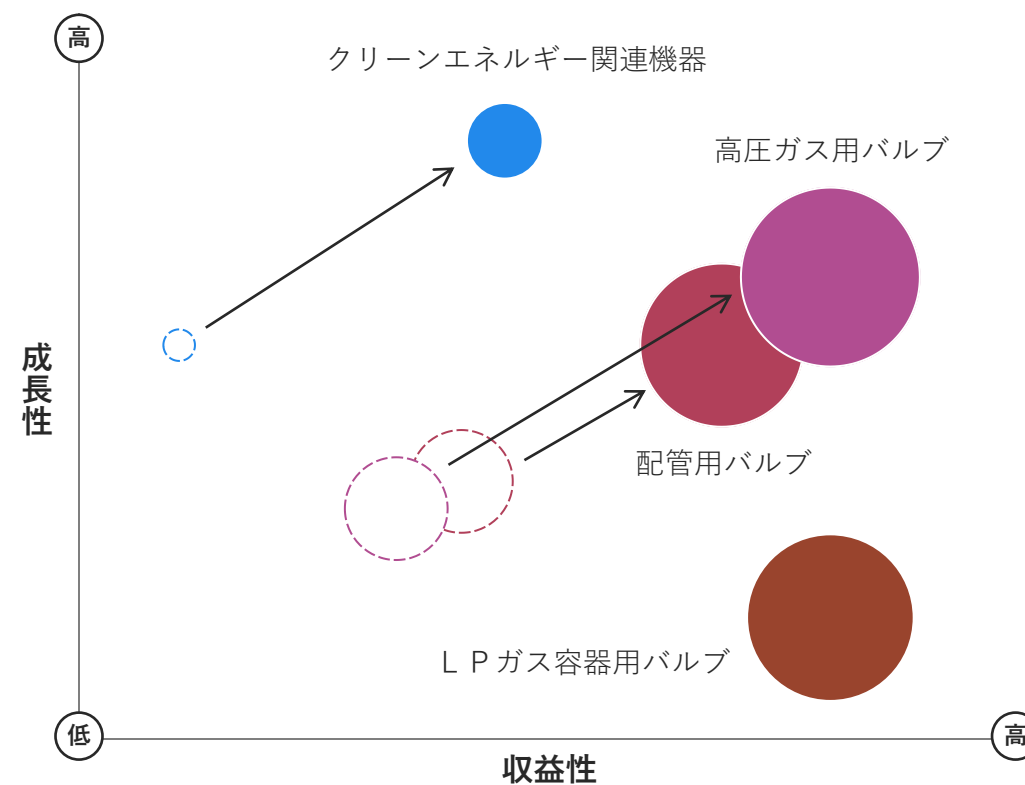
成長戦略

- － L P ガス容器用バルブで安定収益を獲得、配管用バルブ・高圧ガス用バルブで成長
- － クリーンエネルギー関連機器でさらなる飛躍を目指す

各事業の位置づけ



事業ポートフォリオ





今期の計画と株主還元

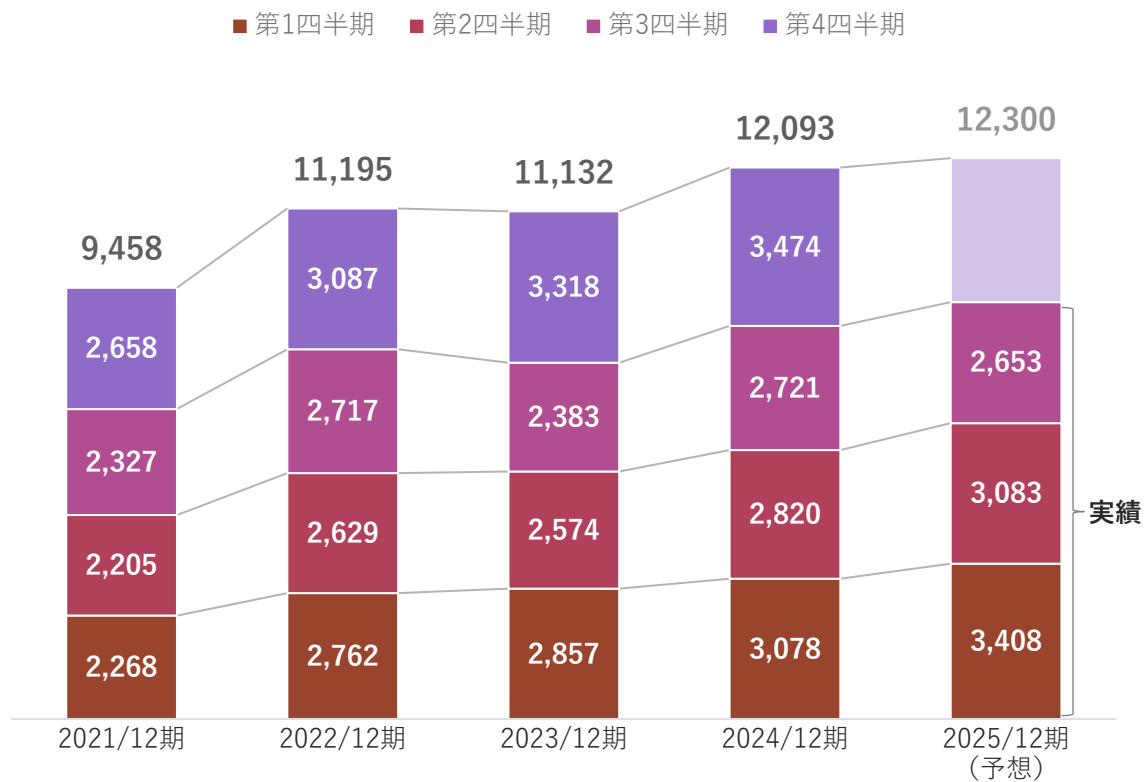


今期の計画と進捗状況

- 主力のLPガス用バルブは価格改定効果に加え、再検査需要やバルク向け需要も増加し前年同期比で増収
- 原材料を含む各種価格高騰が継続した影響はあったものの、増収効果が大きく前年同期比で約10%の営業増益を確保
- 前期に計上した特別損失がなくなったため、当期純利益は大きく増加

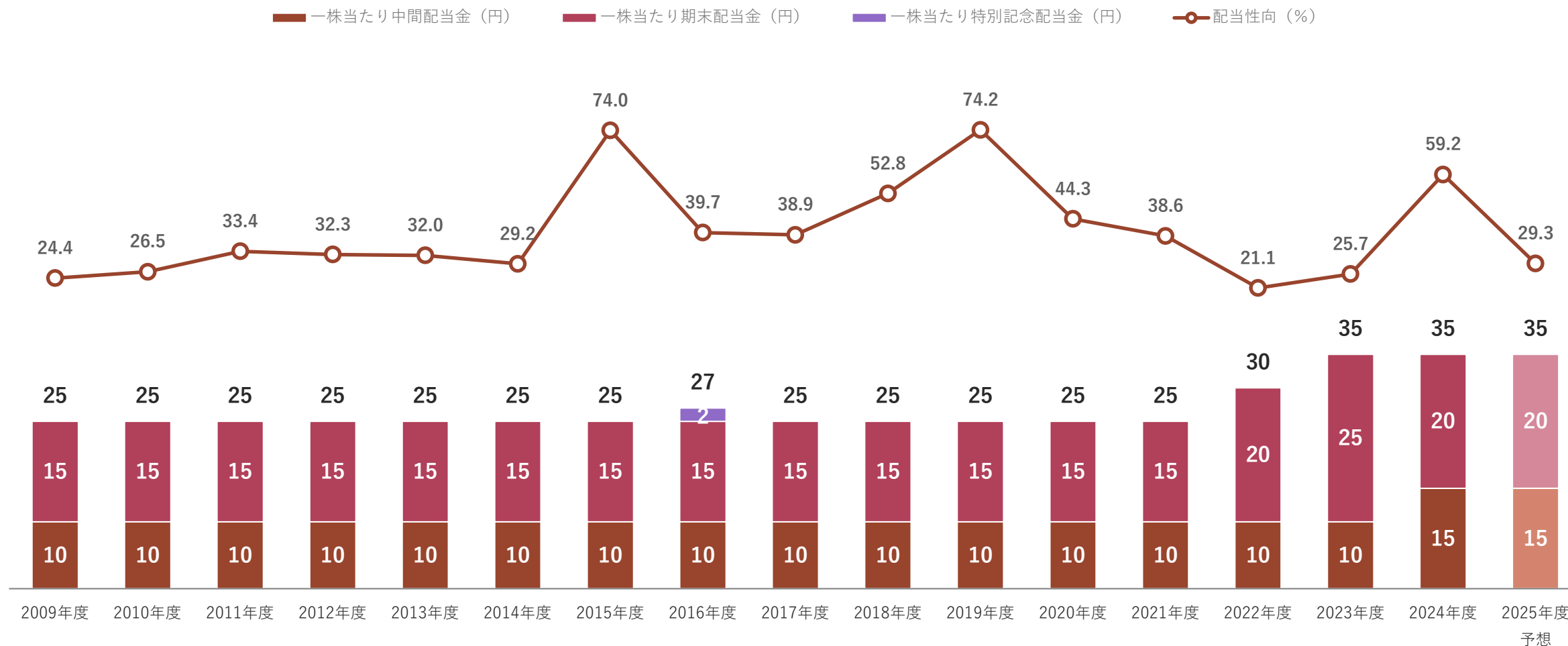
単位：百万円	2024/12期 第3四半期	2025/12期 第3四半期	前年同期比		2025/12期 通期	
			増減額	増減率	計画	進捗率
売上高	8,618	9,144	+525	+6.1%	12,300	74.3%
営業利益	715	785	+70	+9.8%	1,050	74.8%
構成比	8.3%	8.6%	+0.3pt	-	8.5%	-
経常利益	774	853	+79	+10.3%	1,150	74.2%
構成比	9.0%	9.3%	+0.4pt	-	9.3%	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	88	601	+512	約6倍	800	75.1%
構成比	1.0%	6.6%	+5.5pt	-	6.5%	-

四半期売上高（単位：百万円）



株主還元の基本方針

- 業績に対応した配当を行うことを基本とし、企業体質の一層の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実に留意しつつ、経営成績の状況を勘案して配当を実施する方針





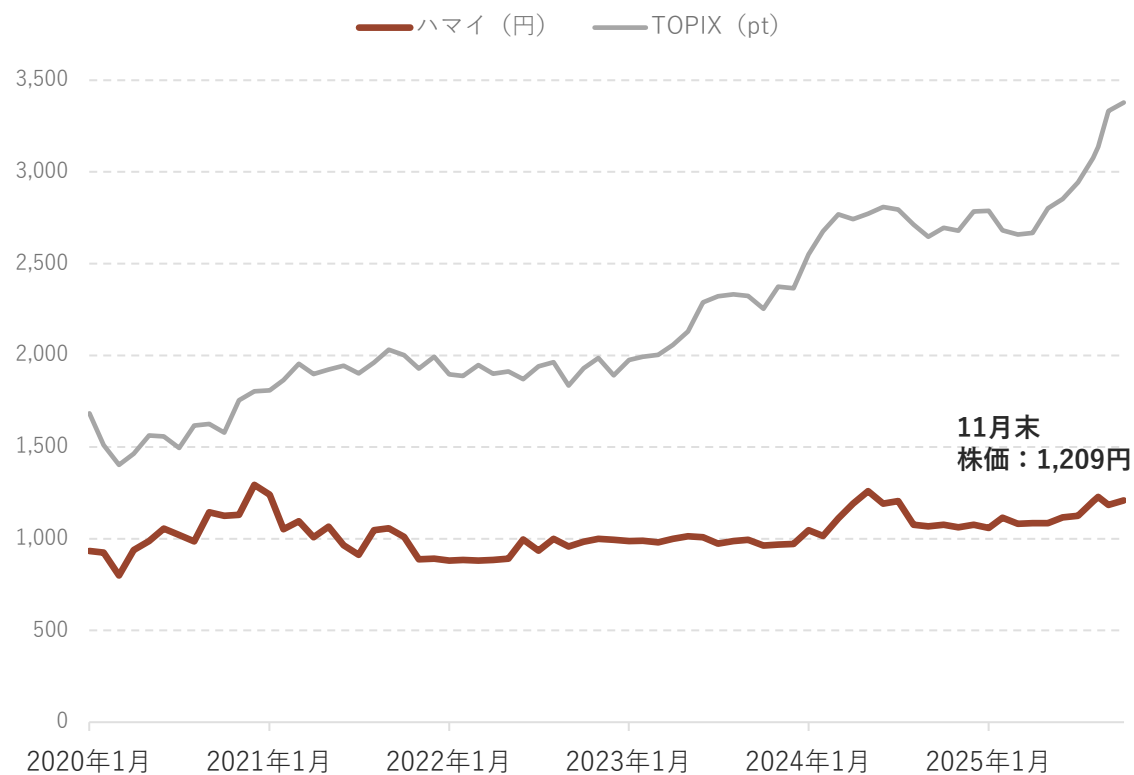
株価と指標の推移



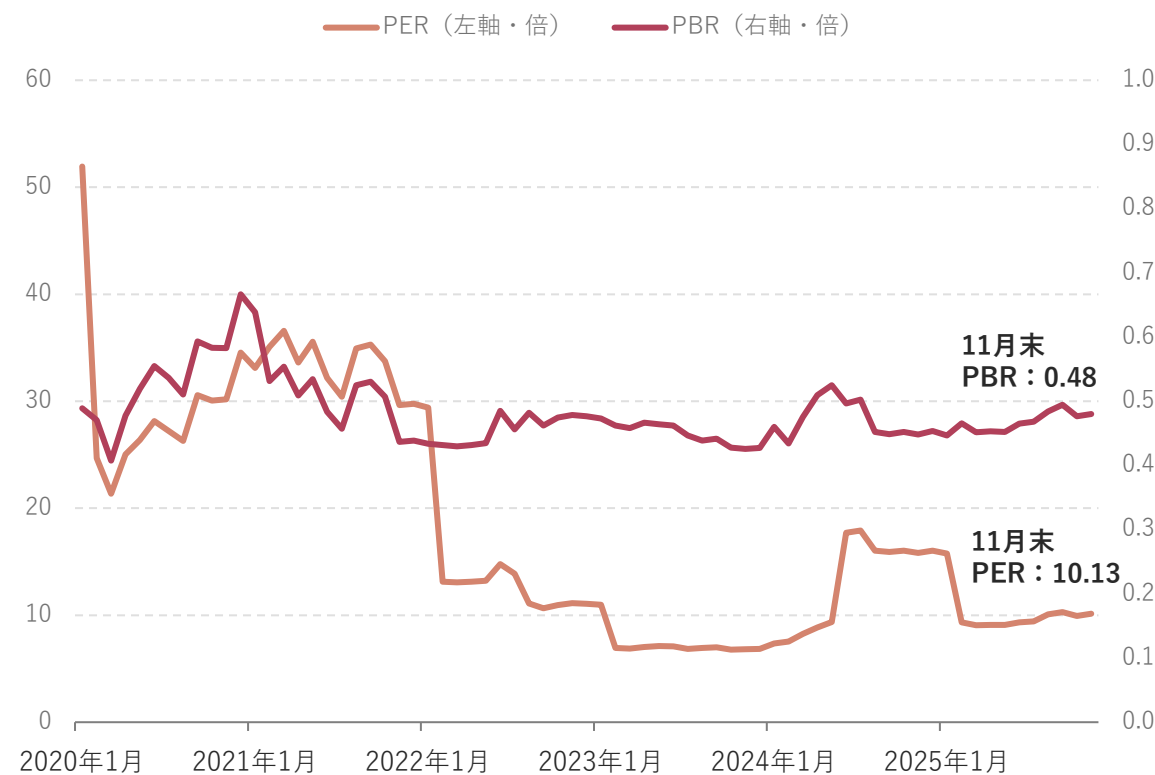
現状認識

- － 2020年以降、TOPIXが上昇する中、当社の株価はほぼ横ばいで推移
- － 一株当たり利益（EPS）は増加したものの、市場からの期待（PER）が低下したことで、PBRは依然として0.5倍程度で推移
- － 好業績にもかかわらず、PBR1倍割れが定着していることに危機感を持っており、今後対応策を検討する方針

当社株価とTOPIXの推移



当社のPERとPBRの推移



*PERは会社予想、PBRはLTMにて算出

© Hamai Industries Limited

ハマイは創業時からメーカーとして安全と品質に重きを置いてきました。
上場企業として求められるものが増えてきましたが、安全と品質を重視する姿勢は変わりません。

しかしながら、すべてのステークスホルダーの要求に応えるべく、企業倫理と透明性を高め、投資家の方々にも関心を持っていただける企業に生まれ変わろうとしています。

あらゆるステークスホルダーの方々のご協力をお願いするとともに、ハマイの今後にご期待をお願いします。



本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

<IRお問い合わせ先>

管理本部 取締役管理本部長 吉村 真介

TEL : 03-3492-6711

E-Mail : s-yoshimura@hamai-net.com